

令和3年度 第2回釧路市地域ケア会議 ご意見等の集約結果

ご意見

地域ケア会議や総合事業で自立支援に向けた助言や関わりができるよう取り組んでいるので、お声がけいただきたい。今後の課題として、コロナ禍においても地域支援事業が継続して開催できるよう、ICTの活用についても協議検討していきたい。

地域包括支援センター主催の地域ケア会議において、医療者の立場として出席し情報共有できる機会があれば、当院としてもさらに地域の理解が深まると考えている。

要介護認定申請の方法がわからない、医療へつなぐタイミングを逃し訪問看護が介入したときには保清などのケアが全く受け入れられないほど認知症が進行している等、対応に苦慮するケースが増えてきている。各機関の役割分担について、今一度全体で共有すべきではないだろうか。また、書面開催ではタイムラグがあり、現場に反映されるのが難しいため、本体会議はWeb開催が望ましいと考える。

個別の地域ケア会議の内容をみると、問題が複雑化していることがよくわかる。介護分野だけでなく、障害・医療・福祉その他さまざまな機関との連携が必要なケースも多く、「どことつながることが必要なのか」「どうして連携する必要があるのか」「誰に相談すればよいのか」等、私たち専門職は常に多くのことを学び、経験を積む必要がある。地域ケア会議は多分野の委員から構成されており、複雑多岐にわたる事例についてはそれぞれの立場からの意見やアドバイスをいただくとありがたい。私自身も普及啓発する立場から、地域で起きている問題を住民や関係機関に理解してもらえる努力をしていきたい。

認知症高齢者世帯における困難事例は一事業所単独では解決できないことが多いため、市や地域包括支援センターの積極的な支援をお願いしたい。

釧路市の少子高齢化や人口減少を鑑みると、早急に対応していく必要があると考える。町内会においては、高齢者のみの世帯が増えてきており苦慮している。また、地域包括支援センターが主催する地域ケア会議についても、積極的に参加し協力していきたい。

地域包括支援センターを知らない、もしくは正しく理解していない高齢者が多い。地区老人クラブや単位老人クラブ等で研修会を開催し、知ってもらえる機会を増やしていくことが大切であるとする。

ご意見

昨年「ケアマネジャーの業務範囲はどこまでなのか」をテーマに研修を開催し、対応に苦慮する事例を共有するとともに、どのような手立てが考えられるのかの議論を行った。身寄りのいない高齢者が増えており、高齢者自身の訴えや関係機関からの依頼にケアマネジャーが対応せざるを得ない状況が少なくないことが明らかとなったため、以下のとおり報告したい。

【高齢者自身の訴え】

ヘルパーが対応できない買い出し(ペットの餌等)、引越しの手伝い、ゴミ屋敷状態の家屋整理、生活保護の申請代行や代筆、鍵の預かり、離婚後の施設探し、医療費の支払い代行など

【関係機関からの依頼】

救急車同乗、入院時の荷造りや署名、入院先への同行、自宅で腐敗している食べ物の整理、看取りの同席、徘徊等養保護者引き取り、救急搬送後の引き取り、緊急連絡先登録の依頼など

【考えられる手立て】

- ①緊急時は、ある程度までの対応はやむを得ない。
- ②ケアマネジャー1人の判断ではなく、職場内や他事業所とも協議。
- ③地域包括支援センターへ相談。新たな制度を作るきっかけにもなる。
- ④釧路地区は基幹産業の衰退から稼働世代が流出し、今後ますます身寄りのいない高齢者は増加することが予測される。地域課題として行政レベルでの議論が必要である。

【その他】

何年も受診していない方の病院の調整から関わり、関係機関と連携しサービス調整を行った事例もあった。大変だった半面、支援体制が整い在宅生活の目途が立ったことに喜びを感じた。今後も関係機関と連携しながら、支援をしていきたい。